

# 令和5年度 学校評価表

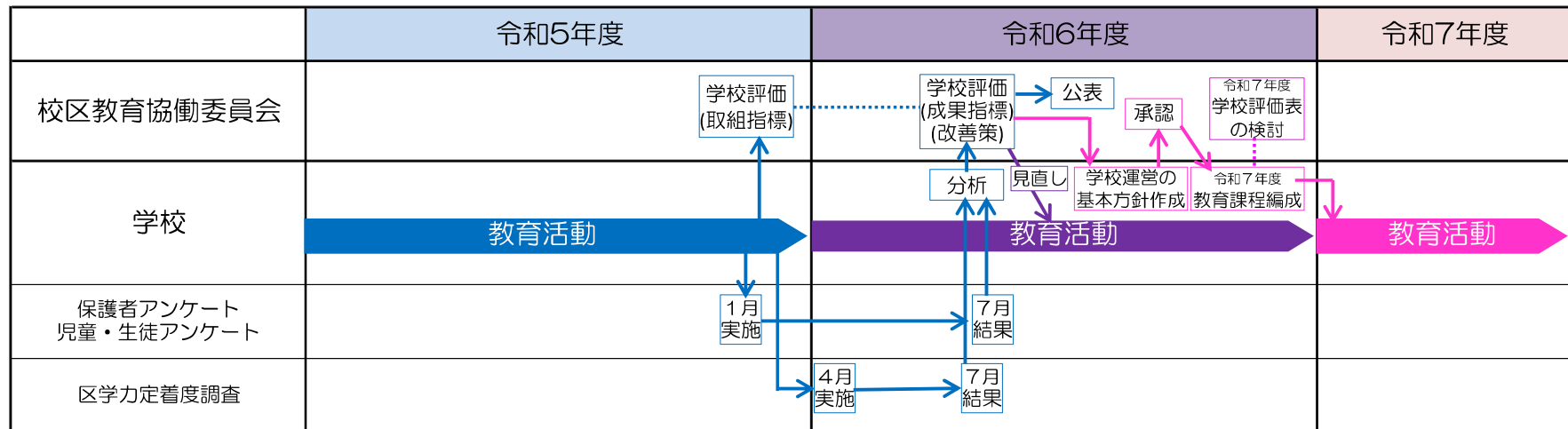
品川区立中延小学校 校長 中郡 裕帰  
 中延小学校校区教育協働委員会 委員長 伊東 富士雄

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正 令和5年3月24日 教育長決定 要綱第5号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

- (1) 学力に関すること。
- (2) 人間性や社会性に関すること。
- (3) 体力・健康に関すること。
- (4) いじめ防止の取組に関すること。
- (5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※令和5年度の学校評価が令和6年度および令和7年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



令和5年度 学校評価 品川区立中延小学校

評価項目1 学力に関すること

重点目標		○これからの多様な社会に的確に対応していく、基礎的・基本的な学力として必要な知識・技能・理解、思考・判断、表現・創造力の育成を図りつつ、一人一人のよさを生かした指導を推進し、夢や希望をもって個性豊かに生涯学び続ける意欲を育成するにあたり『よく考えやりぬく子』を重点目標とする。 ・児童の実態に即して、児童の学力向上を図るため指導法、教材、カリキュラムの工夫をする。 ・ICT機器を活用し、児童が主体的に学習に取り組もうとする意欲を引き出すと共に、個に応じた指導を充実させる。 ・各種学力調査や単元ごとのレディネステストを活用し、児童の習熟度を把握した上で個に応じた支援を通じた基礎学力の定着を図る。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	各学年で実施する漢字、計算テストの結果をともに正答率80%以上になるようにする。	品川区学力定着度調査において、国語科では各学年の目標数値より約4ポイント下回った。算数ではどの学年も全国平均とほぼ同程度で目標値は2から9ポイント上回っている。	B	○学力向上に向けた家庭との連携が課題である。一人一台端末の活用はもちろんだが、従来の紙ベースでの家庭学習を併用し、家庭での学習習慣の定着を図る。また、ワークテスト等でできなかった問題等は繰り返して行い、全児童が理解を確実にするよう丁寧な指導をしていく。
	朝モジュール、昼モジュールの時間に、中延ドリルおよびことのはノート等に取り組むことで、基礎的な漢字・計算の定着を図る。	引き続き、東京ベーシックドリルやタブレット端末のeライブラリ等の個に応じた教材を活用し、習熟度に応じて繰り返し取り組む指導を行うことで、学力の徹底定着を図る。	B	
②	児童アンケートでICT機器を活用したことで学習意欲や理解が向上したとの回答を80%以上にする。	児童アンケートの「授業でもっとコンピュータやタブレットなどのICT機器を活用したいと思いますか。」に肯定的な回答が88%と高い割合であったが、令和4年度より3%下がった。	A	○保護者アンケート「お子様がコンピュータやタブレットなどのICT機器を日常的なツールとして活用し、情報化社会に適応するための能力を身に付けることは重要だと思う。」には、91.3%の肯定的な評価があり、学習ツールとして学力の向上に結びついてきている。今後は、タブレットの持ち帰り等による有効活用を通じて、習熟度に応じた学びを充実させる。
	ICT機器を活用した授業を日常的に展開する。ロイロノート等を活用して、児童の意欲を高め、学習内容の理解や表現力の向上を図る。	ICT機器、特にタブレット端末の活用は全学級で実施され、学習意欲の向上にはつながっている。また学習に有効なツールとして教員同士で創意工夫をして児童の理解力や表現力の向上につなげている。	A	
③	児童アンケートで習熟度別学習に取り組んだことで、意欲や理解が向上したと回答する児童を80%以上とする。	令和5年度品川区学力定着度調査の、算数「主体的に学習に取り組む態度」にて目標値全学年算数を見ると、目標値と比較して上回っているのは、5、6年生で、今年度目標値を5ポイント以上上回るとした目標も達成した。目標値と同等なのは2、3、4年生であった。	B	○中延小学校は小規模校のよさとして、安心できる雰囲気や発言ができ、学級の中で受け止められる環境がある。また、習熟度別指導は、個々の習熟度に応じた指導の中核として機能し、児童にも成果の実感はある。小規模校である特色を学力の向上に具体的に寄与することができるよう、習熟度別編成の工夫や個に応じた指導の充実を引き続き推進する。
	第3学年以上の学年で実施する習熟度別少人数算数指導では、児童一人一人に対するきめの細かい個に応じた指導を行い、基礎的基本的な学習内容の定着を図る。	少人数指導の良さを生かして個のつまずきや課題に応じた指導を行い、発言の機会や質問の機会を設けることはできている。学力の定着のために、意図的・計画的な習熟度別指導を一層充実させることが重要である。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

令和5年度 学校評価 品川区立中延小学校

評価項目2 人間性や社会性に関すること

重点目標		○「自律」の基礎となる力を身に付けた児童を育成する。特に「挨拶ができる」「時間・時刻を守る」「約束を守る」「役割を果たす」ことの大切さを理解させ、実践力とする。 ・自分から挨拶をする習慣を付けるために、定期的に挨拶に係る生活目標を設定し、看護当番、代表委員、学年ごとによる朝の挨拶運動を行う。 ・児童が自分のよさや成長を実感できるようにするためにも、廊下や教室の掲示物は、月1回以上更新し、肯定的なコメントを伝えるようにする。 ・ボランティア活動やたてわり活動、保小連携を通して、地域社会での諸活動へ積極的に関わろうとする態度を育て、社会での一員としての意識と役割を理解させる。		
評価指標	最上段：成果指標	最上段：成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降：取組指標	2段目以降：取組指標の達成状況の説明		
①	児童・保護者アンケートにおいて、挨拶に関する設問について肯定的な回答を90%以上とする。	保護者アンケートの「学校や公共のルール・マナーを守るようにしている」の項目では約90%の保護者から肯定的な回答を得ている。	A	○交通ボランティアからも、本校の児童が特に進んであいさつができているとの地域の肯定的な評価がある。地域の方々のふれあいも通して、あたたかい挨拶が交わせる気持ちの醸成に努める。コロナ禍の中で、いっそう計画的に効果的な取組を行い、気持ちの良い挨拶を校外にも広めることができるようにする。
	挨拶運動を毎朝行うとともに、気持ちのよい挨拶を呼びかける生活目標を定期的に設定し、全児童が進んで挨拶できるようにする。	コロナ禍により積極的な挨拶運動を実施することはできなかったが、5月以降徐々に活動を再開させた。児童相互や教員へのあいさつや地域の見守りボランティアの方々のあいさつなどはできるようになってきた。	B	
②	児童アンケートにおいて、自他の成長について肯定的な回答をする児童が90%以上とする。	児童アンケート「自分が所属する集団の目標の達成に向け、自分の役割や責任を考えて行動できる。」の項目では肯定的な回答が90%を越え、自他の成長を認め実践する態度が醸造されている。	A	○本校の児童には「一人一人名前呼び合える学校」として自他のよいところを認めあう習慣が概ね身についていると思われる。これを、自己有用感へと高めていくことが重要である。引き続き、体験的・経験的な活動を通じ、成功体験を重ね、自己有用感を伸ばす働きかけと指導を継続する。
	教職員による児童に対する肯定的な評価を通して、児童が自分の成長や友達のよさを実感できるようにする。	概ね達成できた。i-check等の調査やアンケートにおいて留意を要する児童に対しては様々な取組や機会を生かして意図的に自己肯定感を高めていく。	B	
③	児童アンケートで自己を肯定的に受け入れる回答をする児童が90%以上とする。	i-check「自分にはいいところがあると思いますか」の項目では、4年88.5%、5年87.5%、6年85.7%と90%には達しなかったが、全国平均は大幅に超えることができた。	B	○本校の児童は、少人数の集団の中では自信がもてているが、大集団の中では自信がもてない状況が見られる。そのため、広く交流をするとともに、地域とのかかわりなどの中で、意識的に環境を変え、大集団の中での成功体験をもたせ、教職員による適宜な価値づけをし、学力向上への意欲にもつなげる意欲的な姿勢を育てることが重要である。
	ボランティア活動やたてわり活動、保小連携、特別支援学級と通常の学級の交流等を通して、自己有用感を高め、ボランティアマインドを高めるようにする。	年間を通じて、個々の児童に活躍できる機会を意図的・計画的に設けることができた。引き続き、児童の自信と自覚がもてる取組になるよう、意図的・計画的な実施に努める。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

令和5年度 学校評価 品川区立中延小学校

評価項目3 体力・健康に関すること

重点目標		○生きる力を育むことを目指し、創意工夫を生かした「体力」(からだりよく)を育てる特色ある教育活動を展開する。 ・生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育むために、「元気アップタイム」を実施する。・児童に歯や口の健康意識を育てるために、歯科校医や養護教諭による歯磨き指導を行い、給食後に「歯磨きタイム」を実施する。・通常学級と特別支援学級との交流や保育園との交流を通じ、思いやりの気持ちや感謝の気持ちをもつことを大切にしている指導を行う。・オリンピック・パラリンピック教育アワード校として、「障害者理解」「障害理解」に重点を置いた取組を推進し「心のバリアフリー」を実現する。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	児童アンケートで運動をすることについての肯定的な回答をする児童が90%以上とする。	区学力定着度調査Icheck「週に何日くらい運動していますか」に「だいたい毎日」と答えた児童は50.0%(国平均30.4%)と全国平均大幅に上回る数値となっている。	B	○コロナ禍により、運動の種類や取組方法について配慮を要する中、日常の中での休み時間や活動方法等の工夫により、運動に親しむ姿勢を定着させている。体力テスト等の数値としてはなお課題が見られる状況にあるため、児童の体力・技術・意欲等に即した体力向上策を継続する。
	週4日以上、「元気アップタイム」を朝の活動として継続的に実施し、運動に親しむ態度を育む。	「元気アップタイム」の取組は、区のスポーツトライアルや体力テストに向けた取組を中心に、継続的に実施できた。児童の運動に関する意欲喚起のひとつの手立てとなっている。	B	
②	児童アンケートで歯みがきの大切さを感じ、実行しているという回答をする児童が90%以上にする。	令和5年度は、コロナ禍が明け、給食後の歯みがきタイムを任意で行うことができた。しかしながら、これまでの実績が実を結び、虫歯のある児童は一桁の人数である。引き続き、虫歯を減らす取組を推進する。	B	○学校保健委員会でも、歯科校医の先生から講話をいただいた。これまでの、校内放送での呼びかけや歯科校医による出前授業等を通じて、継続してきた取組が功を奏しているものと思われる。引き続き、養護教諭による授業指導を踏まえ、自らの健康に対する意識向上をいっそう推進する。
	歯磨き指導や給食後の「歯磨きタイム」を通して、歯や口の健康意識を育てる。	モデル校として積み上げてきた取組に加え、歯科校医等と連携した事業を実施することができた。引き続き、体づくりの基礎としてもつなげていく。	B	
③	児童アンケートで思いやりや友達を大切に思う気持ちについての肯定的な回答をする児童が80%以上にする。	区学力定着度調査Icheck「あなたの気持ちを分かってくれる友達はいますか」の項目には4年92.5%、5年88.5%、6年100%と高い数値を示した。	B	○通常学級と特別支援学級の交流等を通じた学びが成果につながり、思いやりや友達を大切にしている心はよく育っている。しかしながら、児童にとっての自己評価は十分ではない。過去4年間のオリンピック・パラリンピック教育アワード校としての経験を生かし、いっそう「心のバリアフリー」定着を目指す。
	通常学級と特別支援学級や中延保育園等との交流、自分の成長や優しさに気付き、実践し、思いやりの心を育む。	コロナ禍が明け、徐々に直接的な交流を行っていくことができた。また、体育学習発表会や作品展などの行事を通してやれることは実施することができた。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

令和5年度 学校評価 品川区立中延小学校

評価項目4 いじめの防止の取組に関すること

重点目標		○「いじめ」という人権侵害行為の防止という考え方を学校内外に周知徹底し、問題の未然防止に努める。 ・いじめの早期発見を意図して、学期1回の生活アンケートを実施する。児童との関係構築のために、6月に児童との個人面談を実施する。 ・児童や保護者の抱える悩みを受け止めるため、養護教諭やスクールカウンセラーを活用し、学校におけるカウンセリング機能の充実を図る。 ・児童の生活態度・行動などを全教職員で対応するため、毎週の生活指導夕会で情報交換や共通理解を図る。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	児童や保護者との関係を良好にし、いじめならびに不登校の未解消率を0%とする。	令和5年度において区教委に報告を要する「いじめの認知」案件は2件あった。その内の1名は結果的に転校となり重大事態の報告書を作成。不登校に関しては病気によるものや医師の指示による一定数の欠席日数が見られる児童がある。	B	○問題行動の発生は、いつ、どの学級でも起こり得るものであるとの意識を校内で常にもつとともに、保護者・地域とも連携し、早期発見・早期解決に努めることができるよう、引き続き教職員の研鑽と組織的対応を推進する。
	生活アンケートの記載内容を校内で共有し、個人面談等を通じて、児童との関係構築と問題行動等の早期発見をする。	引き続き、保護者と連携した組織的な対応を一層心掛け、問題の未然防止と早期発見に努めていく。	A	
②	児童・保護者アンケートで、教師との関係について肯定的に感じられるという回答を90%以上にする。	icheckの「先生は、あなたの気持ちを分かってくれますか」の項目では、4年92.3%、5年100%、6年92.9%と高い数値を示した。	A	○目標数値に概ね近づいていることから、教職員・スクールカウンセラー・外部専門家等による相談体制は整い、一定の評価を得ていると思われる。また、スクールカウンセラーの面談にも一定の利用者がある。個々の児童の悩みに寄り添えるようにするとともに、引き続き組織的な対応により外部機関との連携も密にする。
	養護教諭やスクールカウンセラーを活用し、児童や保護者の抱える悩みを受け止める体制を整備する。	スクールカウンセラー等と連携し、児童や保護者の悩みに寄り添った対応を心がけ、一定の予約利用件数がある。引き続き、保護者・関係機関とも連携して取り組んでいく。	A	
③	生活指導夕会を情報共有の場として開催し、全教職員が児童理解に努める。	令和5年度を通じて、毎週の生活指導夕会を確実に実施することができた。情報共有が適切に行われる環境を確保できた。	A	○生活指導夕会は計画通り実施している。また、各学級の児童に関する情報共有が計画的に行われている。また、関係機関とも情報共有をおこない、今後とも、本校の生活指導の要として意図的・計画的な運営を継続する。
	関係機関の職員を交えて毎週開催する生活指導夕会等において、児童の生活態度・行動などに全教職員で対応する体制を整える。	子ども家庭支援センターや児童相談所と、必要に応じて連携し児童の情報共有を行うことができた。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目5 (特色ある教育活動に関すること)

重点目標		○特別支援学級・中延保育園・地域ボランティア・地域の福祉施設等との交流活動や中延の森を中心とする自然体験学習等の特色ある教育活動により、自ら意欲的に取り組み追究し続ける児童の育成を目指す。 ・家庭や地域の人々の学校に対する理解をより深めるために、保護者・地域と連携した教育活動を展開し、児童が意欲や希望をもち、安心して生活できるように教育環境を整備する。 ・コミュニティ・スクール(地域に根ざした学校)として、学校地域連携コーディネーターを連携の軸として地域との連携強化を図る。地域人材をゲストティーチャーとして学校へ積極的に招くとともに、教職員も進んで地域行事に参加する。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	保護者アンケートでの開かれた学校や情報発信について肯定的な回答が90%以上とする。	区・保護者アンケート「現在通っている学校に満足している」に肯定的な回答が92.1%であり、前年度を上回る数値を保っている。	A	○地元町会をはじめとした、地域と連携した学習活動が定着している。地域からも評価を得るとともに、連携による地域の活性化を期待されている。ホームページの充実や、一斉メールの定期的配信等を通じて広報に努めるとともに、地域に根ざした学校としての取組を意識した学習活動を推進する。
	・開かれた学校経営の実現のため、年10日以上学校公開を周知し、保護者会を年6回実施するなど、常に教育活動を公開するとともに、学校だよりやホームページ等での積極的な情報発信を推進する。	コロナ禍が明け、学校公開は計画通り行うことができた。教職員の負担軽減のため、次年度以降は日程に精査が必要と考える。ホームページの更新は定期的に実施できた。	A	
②	保護者・教師アンケートで、地域と協働した取組に成果を感じたという回答を90%以上とする。	保護者アンケート品川コミュニティ・スクールは良い取組だと思う。」に肯定的な評価が100%と令和4年度よりも8%上がった。	A	○コロナ禍明けとしては、「品川コミュニティ・スクール」として一定の成果を得られている。学校地域コーディネーターを通じて地域町会と連携するとともに、校区教育協働委員会に成果を報告するとともに、地域への広報を定期的に行っている。その頻度をあげることが重要である。
	地域人材をゲストティーチャーとして年間を通じて積極的に招聘し、地域人材を活用した授業を30回以上実施する。また、地域行事への参加を募るとともに、積極的に参加する姿勢をもって、地域と協働した取組を進める。	栽培委員会や低学年の子ども祭り、体育学習発表会など、様々な教育活動に地域の教育力を生かすことができた。	B	
③	自然や生き物を大切にしたいという気持ちについての肯定的な回答をする児童が90%以上にする。	アンケートの項目が変更となったため、数値で示すことはできないが、下記のとおり自然や生き物を学校全体で大切にすることができている。	A	○しながわ百景「大楠と中延の森」を活用した事業は地域にも評価を得ている。自然を活用した授業の充実させるため、意図的・計画的に本校の環境を学習に活用することが不可欠である。令和6年度以降も、自然や生き物に恵まれた環境を児童も実感できる事業を推進する。
	発達段階に応じた季節ごとの自然観察や遊び等の時間を工夫し、日頃より自然や生き物を大切にしたい心育てる。	中延の森が改修工事に入り、令和5年度後半は学習等で使用することができなかった。	B	
		「品川教育ルネサンス」に関わる一人一鉢運動等は計画的に実施できた。また、学校で飼育している兎を飼育栽培委員会だけでなく、学校全体で大切にすることができた		

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成